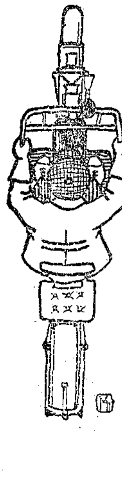
通信

歐洲より（一）

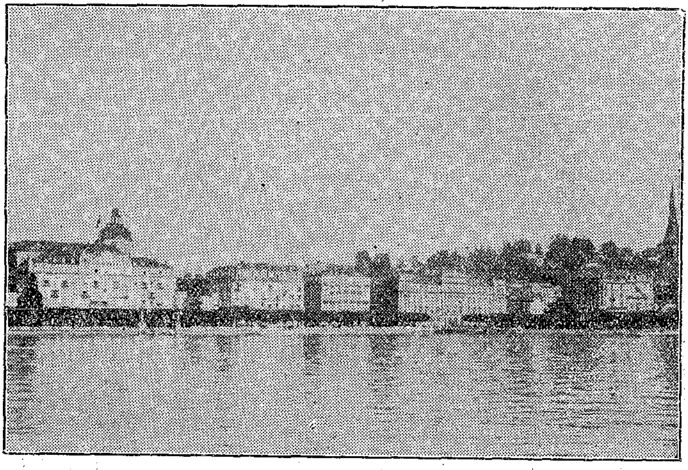
神奈川縣技師　平川保一



九月十日夕暮れに伯林を出發して、懐かしの獨逸に暇を告げ再び南獨を縱斷して、瑞西に入り、バーゼル、チユウリツヒ、ルツチエルン、インターラーゲン、ベルン、デユネーブ等を經由して、十五日朝、約二ケ月目に、巴里に歸着した。

瑞西にての主なるものは、バーゼルのアオフステルング（此所は水に關する工學上の展覽會で歐洲大陸の各國から出品された水力電氣、運河、港灣設備などで誠に立派なものであつた）の見學、ルツチエルン湖の舟遊び、インターラーゲンではユングフラウの登山などであつた。瑞西の景色の優美なこと、ユングフラウ其の他高山の雄大な氷河、この雪景はまた格別で更に車中から眺めらるゝ峨々として削りとられたやうに聳へ立ち山岳、紺碧湛える幾多の湖水、谷間から山腹に亘つて閑かな放牧、湖畔に美しく相映ずる人家や浮舟、是等の自然を征服して發達せる運河、鐵道、隧道、橋梁等飽かぬものであつた、我が專門の道路では近

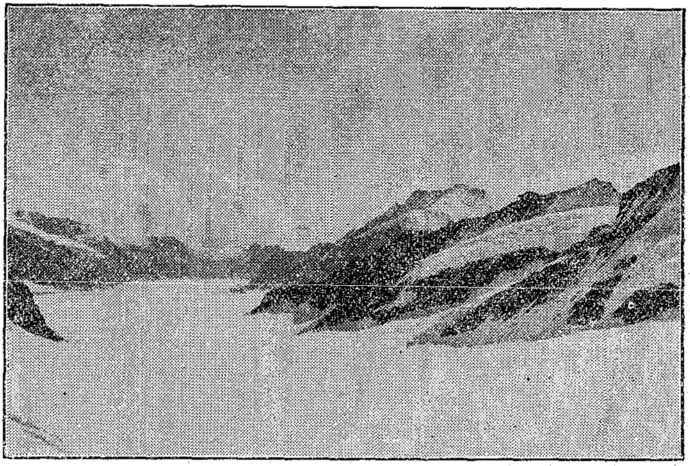
代的鋪裝は多く見ることが出來なかつたが、高原、山腹、谷間、湖岸を縫つて好く發達し、是等の多くは碎石又は砂利等であつたのは、我國の道路に相似た所あるを思はしめた。然し是等も自動車の通ずる幹線に諸所ダストレスの鋪裝に改良しつゝあるを見た、都會の道路に至つては勿論好く鋪裝し、古代の石塊鋪裝最も多く湖畔其の他自動車の快走道路に、漸次アスフアルト鋪裝の發達せるを見せ、街路樹は湖岸の遊歩道路に最も好く植ゑられて居た。瑞西の諸都會中、首府ベルンに一つの特徴を見出した、夫れは歩道を人家と連續して一種のバルコニーのやうな構造にしてゐることで、これは冬季雪の多い時に店先を充分に利用し得るやうにしたのだらう、それから此處では車道の眞中の方々に異樣な彩色をした、餘り大きくない像及所に依つては貯水場（通行人又は牛馬の飲用）が設けてあつたが、餘り廣くない道路に體裁の好いものではなかつた、チユネーブの街路に立つてゐる巡査の服裝が、立派な參謀肩章など附けて嚴しいのも驚異の一つであつた、瑞西で至る處、電氣機關車の發達してゐることは實に羨しく、地勢相似た我國にとつては學ぶべき所が多いことゝ思つた。橋梁はバーゼルやベルン等の高臺の町に谷川に架した橋、チユウリツヒ、ルツチエルンチユネーブ等湖畔に低く架した橋（主として拱橋）等技術的價値は別として、相當に美しいものがあつた、中にもベルンのキル



（ルツチエルン湖畔の町）

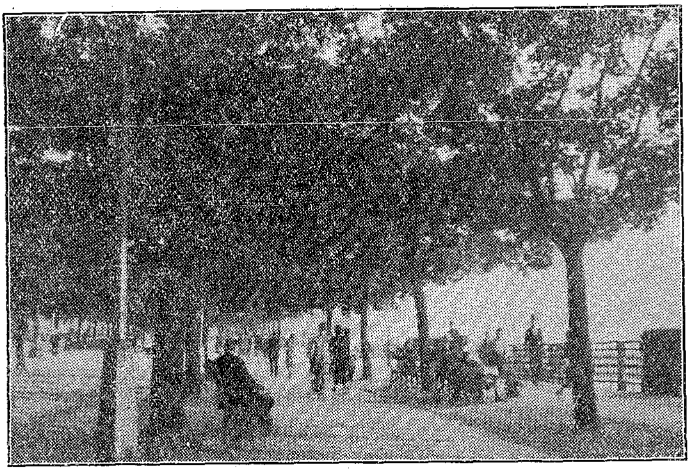
ヘンフエルド橋、ヂユネーブのモンブラン橋は最も氣に入つた、一寸變つて面白かつたのはルツチエルンのカペル橋で、それは古い橋で丁度我國の木橋（桁橋）のやうな構造をしてゐるが、上に全部屋根を有しこれは雪除けの爲めで、中に歴史的繪畫を全通路に亘つて飾つてゐた、尙ほ橋の一端に、大きな石造の塔があつて、昔貯水槽に使用したものらしい、上に屋根を持つてゐる木橋は外にも瑞西で諸所に見られたが、雪の多い國では必要を感じるのであらう。

九月十五日から二十日迄巴里滯在の後、九月二十一日飛行機で再び倫敦行を決心した。蓋し英國は前回あのゼネラル、ストライキに會ひ、十分の旅行目的を達することが出來ないで引揚げたので期間と旅費との都合で再訪問を期し旁々我國では、尙ほ危險率多いやうだが歐洲では比較的安全で著しく發達してゐる航空路を一度利用して見たい希望もあつたからである。飛行當日快晴なれと祈つて居たが、夫れ迄永く續いた天氣が前夜來俄かに悪くなり當日の朝はどんより曇つて風さえ多少吹く模樣はあつたので、流石に決心はして居つたものの、隨分躊躇したが思ひ切つて集合場所（オペラの横グランドホテル）に行つて見れば既に六、七人集り三名の婦人及一人の六、七歳の子供さへ居たので躊躇した自分が氣恥かしかつた、それからすぐ自動車に乘つて飛行場（バリー郊外ブルゲ）に行つた。プロペラ両側二個



（アルプス・ユングフラウの氷河）

附の大形飛行機は、場の中央に自分達を待つて居た。空は相變らず曇つて居たが風は稍々凪ぎた。同乘者運轉士と機關士とで、十人で流石にみんな緊張した面持ちであつた。十二時三十分プロペラの音も高く機は滑走を始め數分の後、場の一隅から地上を離れて空中に舞ひ上つた此瞬間こそ恐怖と愉快との混合したる心理狀態の絶頂であつたらう。愈々空中の人となつた後は既に度胸が据り、恐怖の念は全く去つて愉快のみとなり始め喧騷を極めた凄しいプロペラの音も、いまは耳を聾して無感覺となり、時々起る機の上下運動も、始めはギクリと衝動を與えたが、いまは夫れも却つて心地好きセンセーションを與え天津女ならぬ下界人が、飄然天空を浮遊する氣持は蓋し高山樗牛の言を借りて「現代を超越したる」感があつた。機は絶えず地上から高度を保つこと僅に二、三百尺で、小高い森の樹上の掠めるやうに思はれる。地上の道路、山河、人家、牧場、農場等總て明視することが出來てこれらの景色は又格別の趣きがあつた。人事の小にして自然の偉大さを痛切に感じた。



（チユウリツヒ湖畔の遊歩道）

空中より道路の見學も一寸怪しいが、自動車が砂塵を立てゝ走る白條の砂利道と、氣持好さそうに疾走する黒線のアスファルト道路とは好く識別することが出來る。自分の前にゐた婦人は、さつきから頻りに何か喰つてゐたが、いまは心地好さゝうに居眠りしてゐる落ち付きさには驚いた。二時半頃ドーバ

ー海峡にさしかゝる、カレー（或はブーロン港か）の港は汽車、汽船が盛んに煙を吐いて海陸連絡に忙しさうである機は乘換や默檢の面倒もなく悠然と海上に移つた、天氣は漸く快晴になり風も全く凪ぎて機は次第に高く飛び遂に海上約三千米の高度を取つた。波浪殆んどなく小舟のやうな汽船が黑煙を吐いて、航行するのや、左方遙かに夕陽燦然たるを見ては心が躍つた、約三十分にして海峡を渡る。英國の土地は黑ずんで建物も、何んとなく佛國より質實に見えること前に汽車中の感と同じである。夫から約三十分（巴里出發後約三時間）で、ロンドン郊外クロインド飛行場の上に來た、場上を囘飛すること二周三周、漸く地上に着いたので、始めてホツトして無事であつたことを喜ぶ、皆喜々として機を降りた、機上で全く聾して居た耳が俄かに鳴出して、人の云ふことがさつぱり分らぬ、紀念にと思つて飛行機の寫眞を取つてゐたら稅關吏が早く來いと合圖してゐる、荷物の檢査やパスポートの調べを濟して自動車で倫敦の中央迄、皆と同乘し、自分だけ日本人の旅館に落付いたが、其の日は終日耳鳴りがして閉口した。

福岡たより

漲江生

拜啓。晩秋の候愈議會の開會も間近に相成り中央は嘸かし御多忙のことと存候、當縣に於ける豫算の作製は例年よりは著しく遲れ、昨今漸く決定を見つゝある次第に有之、縣會も來る二十五日より開會のことに決定致候、實は先便にも申上候通り本縣下乘合自動車の發達に伴ひ從來道路の大改築に全力を注ぎ度決心致居候處彼是事情の爲めに遲ぎ